

平成 2 8 年 1 1 月 4 日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

(会派代表者経由)

会派の名称 新創会

経理責任者氏名 森満 晃



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条の規定により、次のとおり、平成 2 8 年度政務活動費 (前期) に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 1, 2 0 0, 0 0 0 円

2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	1, 1 7 7, 8 4 0	5/23~26 北海道留萌市、余市町、小樽市 7/24~25 下甑地域 7/29~30 上甑地域
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費	1 0, 9 7 1	インクカートリッジ
合 計	1, 1 8 8, 8 1 1	

3 残余の額

1 1, 1 8 9 円

注 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成28年11月4日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

会派の名称 新 創 会

代表者名 成川 幸太郎



活動報告書

1 調査研究事業

【第1回政務調査】

(1) 調査年月日

平成28年5月23日（月）～平成28年5月26日（木）4日間

(2) 調査参加者

成川幸太郎、森永靖子、上野一誠、新原春二、今塩屋裕一、持原秀行、谷津由尚、下園政喜、帯田裕達、森満晃（10名）

(3) 調査先及び調査項目

北海道

- ・ 5月24日：るもい食楽歩の取組、効果、課題について
- ・ 5月25日：余市町過疎地域自立促進市町村計画について
- ・ 5月26日：近代建築群（歴史的建造物及び文化財）の維持管理について

(4) 調査の概要

別添報告書のとおり

【第2回政務調査】

(1) 調査年月日

平成28年7月24日（日）～平成28年7月25日（月）2日間

(2) 調査参加者

成川幸太郎、森永靖子、上野一誠、新原春二、今塩屋裕一、持原秀行、谷津由尚、下園政喜、帯田裕達、森満晃（10名）

(3) 調査先及び調査項目

下甌地域（手打地区・長浜地区）

- ・ 7月24日：手打地区の現状と課題等について手打地区コミュニティ協議会と意見交換
- ・ 7月25日：長浜地区の現状と課題等について長浜地区コミュニティ協議会と意見交換

(4) 調査の概要

別添報告書のとおり

**【第3回政務調査】**

(1) 調査年月日

平成28年7月29日（金）～平成28年7月30日（土）2日間

(2) 調査参加者

成川幸太郎、森永靖子、上野一誠、新原春二、今塩屋裕一、持原秀行、  
谷津由尚、下園政喜、帯田裕達、森満晃（10名）

(3) 調査先及び調査項目

上甌地域（上甌地区・里地区）


- ・ 7月29日：「甌はひとつ」の提言について上甌地区コミュニティ協議会  
と里地区コミュニティ協議会との意見交換

(4) 調査の概要

別添報告書のとおり

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

平成28年度 第1回政務活動 報告書

平成28年5月27日  
新創会幹事長 成川 幸太郎 

## 政務活動報告

### 1、活動目的

地域の広域的な連携することによる活性化政策の実行例、及び文化財や伝統的な建造物等の維持管理の方法やそのノウハウを学習し、本市の今後の政策の糧としたい。

### 2、政務活動日程

平成28年5月23日(木)～5月26日(金) 4日間

### 3、調査先

北海道留萌市:「るもい食楽歩(くらぶ)の取り組みと効果や課題」について

留萌市観光協会

北海道余市町:「過疎地域自立促進市町村計画」について

余市町役場

北海道小樽市:「近代建築群(歴史的建造物群及び文化財)の維持管理」について

小樽市役所

### 4、調査参加者(敬称略)

薩摩川内市議会 新創会

成川幸太郎(幹事長)、今塩屋裕一(副幹事長)、上野一誠(議長)、新原春二(副議長)、森永靖子、持原秀行、帯田裕達、森満 晃、下園政喜、谷津由尚 (全10名)

薩摩川内市議会 公明党

杉藺 道朗、中島 由美子 (全2名)

合計 12名

### 5、目次

	ページ番号
「るもい食楽歩(くらぶ)の取り組みと効果や課題」 留萌市	2 ～ 3
「過疎地域自立促進市町村計画」 余市町	4 ～ 6
「近代建築群(歴史的建造物群及び文化財)の維持管理」 小樽市	6 ～ 8

## 1、「るもい食楽歩(くらぶ)の取り組みと効果や課題」について

北海道留萌市 観光協会 代表 佐藤様

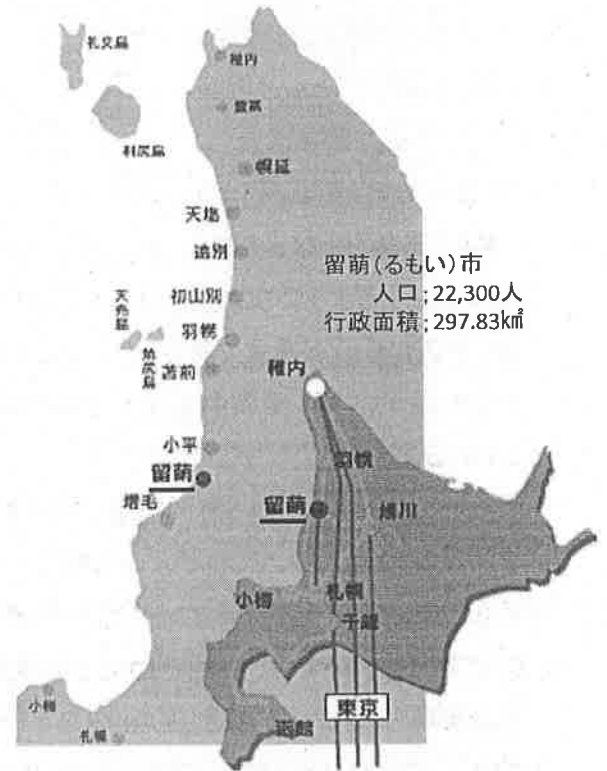
### 1) 留萌市の概要

留萌市は、北海道西北部における留萌振興局管内の中心都市であり、水産加工を基幹産業とし、さらに国の重要港湾を核として発展している。

市の地形は、東西に走る留萌川を中心に両翼には平原、丘陵が続き、南側の地形は比較的高度のある山並みがあり、北部は低位な丘陵地で構成されている。

市の中心部は商店街によって形成され、南部には官公庁、学校、住宅地が広がっている。

豊かな自然に恵まれた留萌市は、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望まれる。



### 2) 留萌市観光協会及び観光連盟の経緯

札幌まで高速で2時間強の距離。漁業、農業建設業で全体の6割を占めている。

「るもい」とは、アイヌ語で「潮が静かに上る川」という意味である。

道の行政がベースとなり、11支庁でグループ化された。事業の作り込みは、過去から行政色が強かったが、平成20年初め頃から民間の力で行う方向へ転換した。これは道庁からの予算配分が少なくなってきたことに起因している。民間で資金を出し合い、100万円を集め、これをベースに活動を開始した。

留萌FMはその当時に開設したものである。留萌市は人口2万2千人。財政も楽ではなく、歴史的背景もない間違ったローカルズム持っていた。このような感覚のずれが当時あり、これを何とかしたいと思っていた。

市民は、もっと自分のこととして感じなければならないのに、全て行政のせいとなっていた。「自分が動かなければならないことは何だろう」と考えた時に、「自分で話したことには責任を持つ」ことを分かって欲しくてやり始めた。自治体連盟として、これらの改善ができるのかと思い、平成17年に関連する他の自治体を回ったが、当時は誰も乗って来なかった。しかし、次第に広域連携を取る形を、どこも取り始め、平成21年には、お互いの情報共有化を図るようになっていた。情報集約して、共通したものを発行する動きとなり、バッグに入るサイズとしての共通情報紙を発刊することとなった。これがるもいガイドブックである。

これに加え、るもいファンクラブ誌を発刊した。これらを統合し、発展したものが現在のるもい食楽歩となっている。観光連盟の組織は、8市町村と商工会議所、商工会、フェリー会社、バス会社にて、観光協会を組織している。物販はほとんど店頭販売。ネットは一部でやっているものの、まだまだの状態。ほとんどは来場者への販売である。

## 2) 今後の方針と課題等について

本年で5年目となっており、リニューアルを考えている。内容は、「これだけ時間があったら、〇〇まで見れる」というようなものを作りたい。現在年間500万円の事業費をもらっている。半分が民間からの会費、残りが道からの支援金である。何もかも行政頼りの感覚は持っていない。いつでも切り離されてやっていける感覚を持っている。その中で、FMも収入源としたい。行政に対しては事業をする対価としてお金をもらう様にしている。

増毛～天塩へは車で1.5時間程度、150キロの距離。北海道の観光客の70%は道内の人である。北海道500万人中、200万人は札幌に住んでいる。平成31年に高速道路が開通するので、かなり効果はあると思っている。オンデマンド型で来た者に対しては、深いおもてなしをしてあげなければならない。まちづくりについては、10年前からこの食楽歩に取り組んでいるが、やっと形になったと思っている。指定管理も取れた。最終到達点は、ひとりひとりが覚悟をもってやりきれる人を、ひとりでも多く作ることを考えている。このバロメータとしては、「どうせだめだ」が減ることである。

正しい情報を正しく発信できる形が観光であると思っている。

## 3) FM局の運営と今後の方針

現在利益は出していないが、FMでは情報を取りに行かなければならないことが、良い意味での活動源となり、人脈構成など、さまざまな効果となっている。取材は各町村へお願いし、行って広告料を少しもらっている。平成16年に立ち上げた。最初から民活で進めてきたので考え方はできている。人の交流、情報の共有など、できる場が欲しかったことが実現したと考えている。広告料は、20秒のスポット放送で1,900円/本、単発で1時間取りの場合は、7万円＋制作費としている。資本は100%民間出資であるが、資金提供として行政から30%を受けている。連盟としてのプロモーションは、道から依頼のあった時だけやっている。留萌を中心に、約3万人の人口をカバーしている。午前10時～午後1時までがゴールデンタイムで、視聴率10%程度。通常の民間ラジオは4%だから、価値がある。

出先からのon airは、イベント中継等実施する。サテライトスタジオを作り、WIFI機能でどこでもおけるようになった。FMは外部情報を内部循環させるエンジンである。併せてシンクタンクnetworkを作っている。

## 4) 本市への展開

観光物産協会は本市も民間経営へシフトする過程にある。出資者を民間で募り、運営することは、最初から正しいことと認識した。FMにしても同様である。民間運営が可能となるための条件として、行政からの委託については、必ずお金をいただくことであり、物販マージンをできるだけ減らせることに徹することだと思う。その上で、全国規模での物販を展開することで、市場規模を大きく、薄利多売の原理を成功させることにあり、これによって民間としての経営安定化を図るべきである。

## 2、「過疎地域自立促進計画」について

北海道余市町 観光課長 阿部様

### 1) 余市町の概要



余市町は、北海道の西部、積丹(しゃこたん)半島の東の付け根に位置する、人口約20,000人の町。町の北側は日本海に面し、他の三方はゆるやかな丘陵地に囲まれており、町内には縄文から続縄文時代の遺跡が数多く見られ、古くから人が定住していたことが知られている。

余市町の行政面積は140.59km<sup>2</sup>。これは東京都区部の世田谷区、大田区、品川区を合わせた面積に相当し、このうち、山林面積が93.50km<sup>2</sup>(約66%)、畑地が21.13km<sup>2</sup>(約15%)となっている。

豊かな緑に囲まれた平坦地に広がる宅地4.83km<sup>2</sup>に市街地が形成されている。気候がスコットランドに似ているということから、ウイスキー製造(ニッカウキスキー)がはじまった話は有名である。

今後の過疎化に歯止めを掛け、自立できる地域としての計画を今回策定した。カテゴリ別の内容について、以下の通りである。

### 2)「過疎地域自立促進計画」について

#### 【基本方針】

「第4次余市町総合計画」、「北海道過疎地域自立促進方針」を踏まえることを基本としながら、各種計画と整合性を図り、本町が目指す基本的な方向を次のとおり定め、当面の取組を推進するものとする。

#### ① 住み良く安心して暮らせるまちを創る

ア 町民の暮らし、健康を守るための施策

イ 町民生活に密着した社会資本を整備するための施策

ウ 豊かな自然環境を保全するための施策

エ 災害に備えたまちづくりを進めるための施策

#### ② 多様な資源と人的パワーを活かした元気なまちを創る

ア 産業振興のための施策

イ 教育・文化・スポーツの振興を図るための施策

ウ まちづくりを担う人材を育成するための施策



③町民と行政が連携して歩むまちを創る

ア協働のまちづくりを進めるための施策

イ財政基盤の確立と効果的な行政を進めるための施策

④この計画は、平成26年4月1日から平成28年3月31日までの2カ年間の計画

それぞれの項目に応じた詳細の数値目標が設定されており、展開されているが、それらを総括して、ディスカッションをさせていただいた。以下、それを記録する。

①観光関連について

要素はいくつかあり、先ずは毛利衛(宇宙飛行士)の出身地としての売り出し。これは効果的だが、志向的要素の強い傾向から、大きく不要させるには至らないが、継続性はあるものと見て今後も継続したイベント等を実施していきたい。次にニッカウキスキー。「マッサン」効果で観光交流人口は過去最高を更新中である。今のうちに、次の展開であるwine tourismへつなげられるように現在鋭意行っているところであり、交流人口の持続を、ニッカウキスキーと共に進めていきたい。

②学校再編について

基本的には、その地域の活性化のため学校は存続させることをベースに置くこととしている。著しく環境が悪い場合はその域ではないが、地域と学校の相互関係が崩れたら戻せないことを認識している。スポーツの振興を含み、学校を核とした地域の活性化は重要な課題であり、守らなければならない。

③北海道横断自動車道の期待効果は？

平成30年に、小樽～余市間が開通する。交流人口の増加効果を大変期待している。しかし、当計画にはこの要素を反映していないので、プラスアルファの認識である。

④議員定数についての見解

今後は定数削減は必須状況となると思われる。これは財政面からと、人口規模の両面からの判断であり、議会の中でも既に検討の必要性の認識はある。

⑤人口移動について(若年層の流動)

北海道の総人口の約40%が集まる札幌市に近いという地理条件もあり、若年層の流出は札幌市を中心として小樽市、千歳、石狩方面へと起こっている。また、札幌市のベッドタウンとしての本町の機能はゼロではないが、函館本線沿いで石狩までの間が現在では発展傾向にある。

⑥Uターン、Iターン者の数は？

町として、分譲地をつくり、現在移住者を優遇している。最大で200万円の補助金を用意している。内容は、例えば子ども二人のご家族が移住され、住宅を建設される際の補助金は、子ども一人に25万円。二人だと50万円。住宅建設を地元業者で行われる際は土地の値段の最高50%までの補助金にプラス50万円までの用意がある。また、リフォームは20%の補助としている。リフォームの場合、補助金総額が2千万円の時は、町全体で2億円の経済効果がある。

#### 4)本市への展開

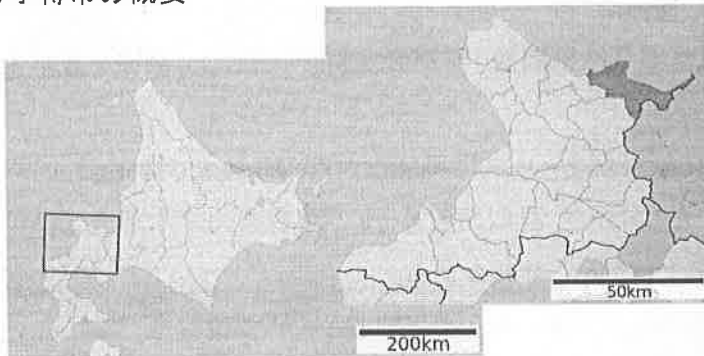
基本方針の中に「後継者の育成」を謳われていることが特徴的である。

それぞれのカテゴリーの中の、それぞれに「後継者の育成」や「携わる人の成長」という文言が際立っている。日本の多数の自治体の、これらの方針を多数、これまで見させていただいたが、人の育成や成長という文言に触れられている自治体は、ここを除いて記憶にない。この部分に、町をこれからも成長発展させたいと言う強い願望と気持ちが込められていることが理解できた。ここが本市への展開の中で、一番大切な部分であると感じている。「現状維持」と良く耳にするが、このことは後継者がきちんと成長して行く中でしか実現できないことを、本市も再度認識し、襟を正す必要がある。議会を含め、後継者の育成は必須課題である。

### 3、「歴史的建造物群の維持管理」について

北海道小樽市 建設部まちづくり推進課長 中西様  
まちづくり推進課 今堀様  
議会事務局 調査係長 大崎様  
調査係書記 河崎様

#### 1)小樽市の概要



北海道後志地方の東側に位置し、積丹半島から湾曲した石狩湾の懐にある。東西が約36km、南北が約20kmあり、市街地の一方が日本海に面して他の三方が山々に囲まれた坂の多いまちになっている。古くから北海道有数の港湾都市として発展してきた。毎年700万人以上の観光客が訪れている。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ10にランクインする都市になっている。小樽市の人口は記録のある明治元年の2,230人から始まり、1964年(昭和39年)9月末の住民基本台帳人口で207,093人の最大値を記録した後は減少が続き、2015年(平成27年)3月末の住民基本台帳人口は124,122人となっている。

## 2) 歴史的建造物群について

### ① 小樽の歴史からなる建造物

1923年に小樽運河が完成したが、その後10年程度で運河は活用されなくなり、岸壁に接岸した貨物船から直接荷降ろしをする形態となった。この時に道路建設が積極的に行われるようになった。これに関係し、1966年に建造物を壊す必要が出てきたが、反対する市民がでてきて話は進まなかった。これが運河論争であり、1980年の計画変更まで継続した。この後、道路整備に併せ、建造物を残す一方で周辺整備を行い、1983年に初期景観条例を制定し、一旦整備を完了する。そして1992年にマンション建設計画に端を発し、まちなみの価値の保存の動きが出はじめ、総合的な景観条例を制定することとなった。景観条例は、2009年にリニューアルし、現在に至っている。

### ② 歴史的建造物維持管理の具体的方法

現在は、全体を5区に分けて、それぞれの管理基準に基づいての維持管理を行っている。管理基準の違いは、維持管理の規制内容の違いによるものであるが、基本的にはそれぞれの建造物は所有者に維持管理の責務があるルールとしている。これは積極的に民間に建造物を借りていただき、管理していただくシステムによるものであり、行政としての維持管理コストを最小限にするための方策である。行政では、維持管理の費用を助成する仕組みがある。但し助成は外回りに関する管理費用が対象。

### ③ 歴史的建造物としての指定と、これまでの指定物件について

指定までの流れは、物件に対し、市から景観審議会へ諮問後、審議会で調査・検討して結果を答申する。これを受けて市長が最終判断となる。

初期に先ず31件を指定した。その後平成2年に新条例をベースに再度検討し、71号まで指定した。しかし、その後再調査をした中で、減っていることも分かり、再取組みを行い、現在の75件に至っている。この中に欠番があるのは、理由があつて解体等で除外した経緯がある。

指定を受ける基準は、ア歴史的価値 イシンボル性(市民に慕われているか) ウ景観性 エ保全度(建設時の外観そのままか)の4つである。これらとリンクした評価基準で、中には国の重要文化財に指定されている建造物も存在している。

以上のことを踏まえ、ディスカッションをさせていただいた。以下内容のまとめ。

#### ① 石づくりの建物が多き理由は？

明治初期～大正までの物流の拠点として北海道の中樞を担うまちとして栄えた。物流上、物資の保管を行うための機能が必要だったが、1904年の大火により、多くの建造物が延焼に遭い焼失した。これを機に耐火性のある石造りに転換する機運が高まったことによるものと伝えられている。建物の構造は、これらのことから、木造の外側に石を貼り付ける“木骨石造”がほとんどである。石は「軟石」と書く石で、札幌や小樽で産出されるもので、過去から手に入り易かったことが影響していると考えられている。

②維持管理の助成対象は外観のみか？

現在の助成対象は外観の保全や修繕が対象である。内装までは財源的に無理な状態である。

③寄付金等は？

ふるさと納税制度のメニューの一環として扱っている。

④国指定文化財等への働きかけは？

日本遺産としての認定の可能性を現在文科省と取り組んでいる。

⑤施設(建造物)の耐震は？

取り組まれているところもあるが、全体的には遅れている状況。所有者の判断に委ねている部分であり、ほとんどの建造物は手をつけられていない状況である。

⑥手宮線を残している理由は？

北海道でできた最初の鉄道がここである(石炭を港へ運搬した)。このことから、手宮線を残すことは意味のあることと判断し線路など全部をJRから買い上げて現状維持を図っている。手宮線の行き着いた先には博物館がある。ルート・エリアを一体として残すべきものと考えている。

3)本市への展開について

歴史的な背景を色濃くしている建造物群には、大変な重厚感があり、引き込まれるような感覚さえある。しかし、これらの話を聞いて、現在残っているのは、当時の市民の反対運動の結果であることを知った。まちづくりとは、このようなバランス感覚が非常に大事であることを痛切に感じた。新しいものを求めるのも大事だが、一方で守るべきものは守る信念が必要であると言う事である。建物のような形のあるものだけでなく、考え方や、ソフト面におけるバランス感覚もまた同じだろう。


現時点では、本市ではこれらの建造物に値するものは存在しないと考えられるが、小物ではその価値を問えるものは存在している。併せて今後価値のあるものへ発展する可能性を持ったものなど、原石をこれから磨く仕組みとセットで考えていかねばならないものも存在している。

大事なことは、これらを見抜く感性と文化的な理論思考ではないか。本市の観光要素の今後の寄与を願い、これからのアプローチは、積極的に試みる必要がある。

# 会派視察報告書

平成28年7月30日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

会 派 会 新 創 会  
代表者名 成川幸太郎 

政務活動費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

## 1 視察年月日

平成28年7月24日(日)～平成28年7月25日(月) 2日間

## 2 視察参加者

成川幸太郎・今塩屋裕一・上野一誠・新原春二・森永靖子・持原秀行・帯田裕達  
下園政喜・森満 晃・谷津 由尚(10名)

## 3 視 察 先

・手打地区コミュニティ協議会

【下甕町手打1035-1 Tel 09969-7-0928】

・長浜地区コミュニティ協議会

【下甕町長浜553 Tel 09969-5-0048】

## 4 視 察 目 的

この意見交換の目的；

甕はひとつの提言について、地元の率直な意見をいただくものである。

## 5 意 見 交 換 の 内 容

・手打地区コミュニティ協議会

1、甕かのこゆりバスルート変更及び追加の件。(竜宮の郷バス停の新設及びバス路線の変更案)

◇竜宮の郷へのバスは昔から通っていなかったのか。

◆団体様は、長浜港から、直接送迎で対応している。

◆市の公共交通の打ち合わせの中でも、客を増やすことを検討している。観光客を増やすためには必須と思われる。

◆現状が一番近いバス停から500m位歩かなければならない。(本町が一番近いバス停)

◆竜宮の郷でのバス転回は可能である。

◆子岳地区の人が、長くバスに乗りたくないから反対との事を言っていたので、いままで実現できていない。

◇9月議会の中で、当局との議論をしたい。

## 2、多目的集会施設の整備及び避難施設について

当初下飯支所の2階を改修し公民館機能を持たせた機能とするとの回答をもらったが、建設費用等のことから白紙撤回するとのこととなっている。薩摩川内市公共施設白書が策定され、この議論の中で検討していくとの回答となっている。

◇現状の2階を改修するよりは、新築の方が安くできるのではないかとの意見もある。

◆現在の手打地域の避難所は、強化ガラスであるが台風の時は恐ろしい。

なので、施設の改修をこれまでお願いしていた。

◆下飯では、手打だけが〇〇避難施設との名前がついた施設が無い。

今の避難施設は「玉姫園」という名称である。

◆以上、2件に対し、今どうなっているのかの経過を聞きたいのである。5/16に提出して以降、何も打ち返しが無い。

◇早急に検討して、やる・やらない、の結論を透けなければならないと思う。

議会として、きちんとこの件は当局へプッシュする。

◆安全なところに、この様な施設はあって当然だろう。避難は最低で2日程度はみんな居るので、

安心できるものでなければならないと思う。

## 3、「てうちん浜や」の光熱費解消のための太陽光発電装置の設置と松ヶ浦海岸までの遊歩道整備のお願い。

◇今後の市の廃校施設等の有効活用策として、本市はそのノウハウを蓄積しなければならない。

ここは、その小規模な事例として、先駆者的存在であるので、今後も問題点はどんどん市へ上げて欲しい。それに対し、市ではどのような方策が良いのかを良く検討して、今後の施設利用に関する判断基準とする形を作らなければならない。そのためのサポートをする。

今回の要望は、太陽光をつけて光熱費を削減する案であるが、これに対する回答は今後検討して行きたい。台風等を考えると、太陽光ではなく、別の方法が良いかもしれない。

◆ダイビング施設を再度開設し、多くの観光客やダイバーを集めた事業もやりたい。

◇一人でも多くの人に来ていただくのは、商売の根幹である。今後も進めて欲しい。

## 4、今後の取り組み

夏の花火大会をはじめ、年8つのイベントを開催している。これまでは内向きのイベントだったが、今後は観光客等を想定した外向きのイベントを検討したいと思っ

ている。

- ・HPを活用した情報発信は、今後も進め、地域活性化を推進する。
- ・地域活性化施設を中心とした運用に懸命に取り組みたい。

#### 5、漁協と薩摩川内産について

- ◆過去から、観光の拠点としての手打だったと認識している。
- ◆漁師の館については、協力依頼が来ているが、うちの漁協は阿久根に卸すため阿久根産になっている。
- ◇市も漁協に対し、川内産を出すことを考えている。川内漁協含む。
- ◆漁師は高い方へ出そうとする。結果、川内より鹿児島や阿久根となる。川内に協力しないということではないが、漁獲量がシビアな状況では、なかなか川内への卸は難しい。仲買ルートもなければ捌けないことも理解して欲しい。

#### 6、放課後児童クラブについて

- ◇放課後児童クラブの設置要望を出して欲しい。地域でこれをはじめの動きができないか。たくさんの方々から、この要望の声を聴く。地域の方々で検討して欲しい。

#### 7、甌はひとつの推進について

- ◇医療、学校、行政について、今後良く検討を重ねて行って欲しいと考えている。  
甌はひとつに向けて、会長としてどのような提言を考えているか。
- ◆我々は甌は二つと思っている。橋がつながっても公共市施設は上、下それぞれ作った方がいいのではないかと考えている。我々だけではとても決められないことと思っている。
- ◇これをまとめて、本当に一つになれるのかと疑念がある。本当に一つになれるのか。
- ◆行政の一体感はなかなか難しいと思う。「甌はひとつ」と、お互いの付き合いもないうちから言っていた。おかしいのではないかと考えている。
- ◆瀬戸架橋は32年にできれば早いと思う。どうあがいても30年にはできない。それが分かっているのになぜ30年に「甌はひとつ」を完成させようとしているのか、地域に持ち帰って検討をさせて欲しいと思う。
- ◇推進委員の意見はほとんど反映されていないと感じている。地元と推進委員の意見、推進委員の意見と提言内容のそれぞれがまとまっていない部分があり、それでは委員が検討したことは、何だったんだ。と我々は捉える以外にない。  
今必要なことは、将来的にはこうありたいという指針をまとめることだと考えている。
- ◆そう。同じ意見。指針を作ることは認識している。  
推進会議では、地域の声は反映されていない。話をしても噛み合わない。先方は話がうまい。地域からの積み上げ方式の提案ではない。
- ◇我々はこれから、進めて行く中で、皆様の意見を反映させなければならない。  
施設のあり方についての協議はしたのか。

- ◆していない。会議前10日前に連絡があり、会議の中では決まったことを報告のよ  
うな形で話されるだけのものであり、意見は聞いてもらえない。

【検討し、地元へ回答が必要な項目】

- ① 甌かのこゆりバスルートの変更及び竜宮の郷までの運行の件  
⇒商工観光部へ協議
- ② 多目的集会施設の整備及び避難施設  
⇒要望方法は会派全体で協議が必要
- ③ 「てうちん浜や」の光熱費解消のための方策と運営サポートについて  
⇒要望方法は会派全体で協議が必要
- ④ 「甌はひとつ」の推進会議の進め方における地元意見の理解と反映  
⇒要望方法は会派全体で協議が必要

・長浜地区コミュニティ協議会

1、コミュニティセンターの件

「甌はひとつ」の提言もあり、多目的ホールとして、緑地公園に多目的ホールとして移転建設をお願いしたい。今後要望として推していきたい。

現在のコミセンは48年建設。耐震診断では問題はなかった。しかし、立地条件において、不便なことと、多数が入れるホールが無い(地域に)。また今後陸上の交通の拠点となるで、これらの整備を要望するものである。建設のための陳情は、以前取り下げとした。従い目的を多目的ホールとしての移転建設を考えたのである。市政懇話会が予定されていた7/12は中止になった。改めての日程は決まっていない。

2、議長より今日の流れの説明

「甌はひとつ」の提言について、蘭牟田瀬戸架橋が完成後(平成30年)の完成に至った時に、上下島がひとつになって、行政組織、医療体制、学校、公共施設等がどうあるべきかを、委員会が提言として上げた。これからの役割は、お互いの言い分を検証し、調整していかなければならない。現在のところ、昨日の手打を含め、甌は二つとの意思が強いことを感じた。これから一つにするための提言をどうやって行くかの共通理解を進めなければならない。有人国境離島法は、住みやすい環境づくりを骨子としている。今後の行政をどのように作っていくかを整理する必要があり、これを肌で感じていかなければならない。今日は自分たちの地域の課題や要望を言って欲しい。

- ◆テレビで見たが、甌にゴミを持って来る話を聞いた。なぜ甌なのか？何のゴミか？
- ◇国が核の最終処分について候補地を探していることを一般質問である議員が言った。市長は応じられない考えである。薩摩川内市がこれを受けて行くことは、先ず考えていない。  
そうはならない。無いことをあった時にどうするかを質問したので、あったことの



様になってしまったのである。

- ◆ 甌はひとつの委員会に参加した。橋ができたからつなぐと言うのは難しい話である。医療や学校も変わる話が出てきた。橋ができたから一つにするという話は、甌はひとつになってくれるのか。なればいいが、皆、考えていることが違うので、実現は難しいと思う。20年、30年先の話を、それまで自分は生きていないのに、意見は言えない。橋ができたから一つになるということは難しいのではないか。そんな簡単な問題ではない。違うと思う。
- ◇ 行政主導の委員会である。現実的な地元の方々の意見が伝わり切っていない事実を感じている。
- ◇ 島の名前の問題はどうか感じているのか。
- ◆ ほとんど気にしていない。どちらでもいいと思っている。
- ◆ これから先、架橋が完成してからは大変だと思う。上に行く観光地という感覚がある。長浜は見る場所は無い。ここに観光で人を呼ぶという話が出るが、どこを人に見せるところがあるのかと思う。昔は自衛隊があり、写真も撮ってはダメと言われていた。それを教わって来たので、今のままじゃだめだと思う。市の六次産業も一握りの事業者のみの話。全部にそのようなことが行きわたらなければ意味は無いが、それはできない。皆が潤うということはどのようなことなのか。上下それぞれが自分のところに持ってきたいと思っている。そうなるのか。生活している人は不安になる。全島の生活が一様に良くなればいいが、皆が集まって意見を言い合って話が構築されればいいがまとまらない。
- ◇ 今言われた意見を確認するために、この意見交換会を開催実施しようと思ったのが背景である。
- ◆ 特老「敬老園」がある。避難する時の場所はホテルであるが、そこまでの道路は1車線である。  
ここを2車線にして欲しい。この話を県につなげてほしい。
- ◇ 将来的な施設のインフラ整備を昨年の議会で提言した。橋が通ってもバスが通れない道路では話にならないと言った。県道拡幅については、架橋を現在は掛けるので手一杯なので、架橋が完成してから取り掛かるとのことである。市もこの問題は捉えている。今後も言い続ける。
- ◇ 振興局の局長が来ていた。前倒しで早め早めに物事を捉えて動いていく約束をした。
- ◆ 「甌はひとつ」について、このことが謳われて40年経つ。島民の願いだった。道路が通ったから病院や学校を一つにすることはないだろう。学校も、病院も二つで、各地域に作っていいじゃないか。甌はつながってひとつでも、地域は二つで良いと思う。この様な話は島の人でないとわからないと思う。
- ◇ 今の話の大きな原点は、住民サービスを低下させないことである。個人的には支所は支所として置く。学校も。この提言の中に、合併特例債が40億円減ることを頭に持ってきている。  
このため、人を減らさなければならない。人件費を減らすために、支所の統廃合という流れである。財政を基本にする必要はあるが、もっと支所のあり方は考えるべ

きだと思ふ。

まだまだ議論が必要と思っている。

- ◇消防の問題で、常備消防体制でなければならないと言いつけてきた。地区消防の体制に本年度から戻ったが、まだ足りない。火消しができる消防でなければならない。橋ができようが、消防は1ヶ所ではダメだと思う。地域の住民の皆さまは、声を上げ続けることが重要である。今後も声を聞かせて欲しい。
- ◇地域はひとが動いて、地域が動かないと出来て行かない。そのためには必要なことを問い詰めて欲しい。出てきてもらって情報を出してほしい。地域で声を発信することが重要である。
- ◇市比野温泉で、いろいろと取り組んでいる。その中で必ず出てくる話が、人口減・費用の効率化である。効率化だと良く行政は言うが実は一本化である。これにすり替わってしまう。そうではなくて、そうなる前にやっておかなければならなかったのである。自然減もあるが、地域の人たちがモノを申さなければならない。自分たちも頑張るから、行政も頑張れと言うことが重要。
- ◆この集落は消極的。みんな言わない。陰では言う。2, 3人が話をしたってなにもならない。飯はひとつの会の後、皆さんに問いかけても誰も何も言わない。住民の意見を表に出せないことを困っている。
- ◆長浜の海岸線の道路が狭い。敬老園の当たりが特に。拡張をお願いしているが、橋ができてからとかの話しかない。
- ◇飯は観光の島と認識している。今後飯と鹿児島市、福岡を結ぶ拠点として、今後出来て行くと思う。飯は魅力を持っている。観光交流は今後図られていくので、そのような自覚を持って欲しい。
- ◇毎日の生活の中で、女性だから感じることはある。そのことは良く解る。いろんなことを会長等へ言っていただいて、話をつないで欲しい。

【検討して地元へ回答する必要のあること】

① 多目的ホールの件

⇒会派で検討し、どのような確認をするか否かの意思統一が必要。

# 会派視察報告書

平成28年8月1日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

会派名 新 創  
代表者名 成川幸太郎



政務活動費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

- 1 視察年月日  
平成28年 7月29日（金）～平成28年7月30日（土） 2日間
- 2 視察参加者  
成川幸太郎・今塩屋裕一・上野一誠・新原春二・森永靖子・持原秀行・帯田裕達  
下園政喜・森満 晃・谷津 由尚（10名）
- 3 視 察 先
  - ・上甕地区コミュニティ協議会  
【上甕町中甕977 Tel 09969-2-2010】
  - ・里地区コミュニティ協議会  
【里町里1608 Tel 09969-7-0337】
- 4 視 察 目 的  
この意見交換の目的：  
甕はひとつの提言について、地元の率直な意見をいただくものである。
- 5 意 見 交 換 の 内 容
  - ・上甕地区コミュニティ協議会
  - 1、県道の道路改修の件
    - ◆中甕地区内に危険箇所が2ヶ所ある。甕島神社の一角、それと幼稚園の一角の2ヶ所。10tのトラックが通る際は、対向車は待たなければならない。甕はひとつの委員会でも意見を出しているが、橋工事と同時に進行して欲しい旨の意見を言っている。が、県の計画の中には入り込んでいるかは分からない。以前は青写真があったようだが、絵に描いた餅だった。鹿島長浜間の道路が先に完成される模様である。事故が起こってから道路診断では遅いことをいつも言っている。市では検討されて

いるかも分からない。橋が30年度で完成した後では遅い。コミュニティ協議会としては、市や県には要望は出していない。要望書が先ではなく、即対応するくらいの事がなければならないと思っている。

◆市長や知事に以前からずっと言っている。相手が県道なので市議会では難しいと思っている。しかし、いろいろな意見として行って、いろいろな場で言って欲しい。

◇本土での道路診断では、毎年何回か上げている。しかし、道路診断では警察、市、県が合入るので効果的と思われる。甌で道路診断をやっているのか。橋が架かれば、圧倒的に車は増える。

◇各市町村は県に要望を出す。それに入っているのか。入っていれば何らかの回答は来ている。そこを先ずは確認する必要があるのではないか。

◆市議会で確認できるか？

◇確認できる。入ってなければ県への要望として追加の動きをする。

◇地元の意見はどうなっているのか。バイパス？拡張？

◆県とは協議しているとの回答はもらっている。(昨年5月21日)その後の連絡が無い。30キロ制限+ガードパイプ、歩道の塗装等の改善策は出来ている。しかし、根本解決には至っていない。予定では30年度に橋が開通。その後の交通量は増えるので、早く着工して欲しいと言っている。どのような構想が良いかとの話もない。だからこの話がどうなっているのかがまったく分からない。

◇正式に確認して回答する(建設水道委員会委員の2名)

◆上甌の道路診断では、警察、消防、県、市が入る。この件は中甌だけの問題ではない。里地域からも声を挙げて欲しい旨を言っている。

## 2、少子高齢化対策について(定住策)

◆若い人が少ないということであれば、市の職員等の若い職員の転勤の際の家族帯同をお願いさせて戴きたい。甌の待機児童対策は取られている。少子化対策として、何とかならないか。議員の地域ではどうか？

◇寄田地域では学校も閉校した。県職等の人事問題は難しい。一時期は増えたとしても継続はできないと思われる。従い異動対象者のみにこれを言うのは難しいことだと思う。

◆学校の子どもの半分は他所から来たメンバーである。

◇湯田地区の中学校・小学校がここ3年で閉校した。他の地域から入ってくる人はなかなかない。閉校する前に、(地元の活性化策について)なぜ何も言わなかったのかを今後悔している。大変難しい問題である。

◇行政の責任もある。10年先はどうなっていくかは目に見えるようである。人口減少に対し、もっと積極的に動ける様な政策を行政は打たなければならない。

◆一つの要因として、高校が無いことが原因。

若い人たちは高校が無いことから島から出て行く傾向もある。月2万円の通学補助はあるが、根本的に高校は何とかして欲しいと思っている。

◆一方では小中学校の合併をしている。今後もこれは進むと思うが、何とか地域の学

校は残してほしいと思っている。

- ◇婚活イベントは、飯島で1回はやろうと思っている。本土から女性を連れてくるので、何とかその時は協力して欲しい。
- ◆以前からキューピットをやっている。独身はいるがなかなかうまく行かない。他方地域おこし協力隊の女性の皆さんは結婚した方がいる。
- ◆全額補助ではだめ。遊びで来る。負担の部分は残しておくべきである。
- ◇先日、地域でNPO法人を作り、研修施設を開設しているところに行ってきた。地域の文化的イベントを立派にやっている。これをベースに地域おこしをやっているところは多数ある。行政に対して言い続けておくことは必要と感じている。飯では雇用の確保の意味からも、是非今後やって欲しい。
- ◇空き家対策は出来ているか？
- ◆空き家はあるけど貸してもらえないという問題がある。消防の増員の際、空き家探しに苦勞した。一般公営住宅はいろいろと制約が多い。現実的には空いている家はあるけど入れないという矛盾した問題がある（家財道具があるため）
- ◆家屋の解体は、重機が入らなければならない。入らないところでは人海戦術でやる以外にない。現在の補助の適用については、もう少し柔軟に対応できる形にして欲しい。
- ◆自治会の1/3は空き家である。費用の面で何とかして欲しい。長目の浜のすぐ近くのため、マイナス要因である。何とかしたいがお金が無い。困っている。家の解体後は固定資産税が上がるのも問題。それと地主が首都圏に居る場合、誰に連絡したらいいのか。どうやって連絡すればいいのかは、自治会では対応できない。自治会が行政を巻き込んで、行政で動いて欲しいという仕組みが無ければ、何もできない。
- ◇固定資産の問題等、これまで質問等してきた。このことをサポートしていく。税情報に関して、個人情報保護法は適用上難しいと思われる。固定資産税は評価額が30万円を超えないとかからない。家を壊すと宅地となるので、税がかかってくる。非買管理という手段もある。（植栽をする）使い方として、危険住宅として管理者へ伝えることを環境課に依頼すれば、連絡は取れる。
- ◇まずは、環境課から状況をきちんと伝え、解決策を選択させるところからである。
- ◇行政代執行もある。これは行政の覚悟が必要となることであるが。

### 3、コーディネート事業について

市の考え方に致してはインパクトが弱く辞退したところである。

- ◇介護保険の改正があって以降、市は社協へ委託しようとしたが社協が断った。そこで市はコミュニティへ振った。各地域は混乱している状態である。

#### 【検討後、地元への回答が必要な項目】

- ① 中飯地区内の県道の危険箇所改修の件⇒建設水道から県の建設部へ上げてもらい、対応を検討依頼を行い、感触を地元へ回答する。

## ・里地区コミュニティ協議会

### 1、提言書について地元の考えについて

平成26年10月の第1回は行われた。27年3月に10回目が終了。

提言の背景や理由は不明である。このままであれば、支所を上飯にとられるような感覚がある。なぜ上飯なのかの説明はない。

◇提言が出た時に驚いた。

◆提言書が出る前に、「上飯町に支所を」というような表現が出たことに対し、なぜの気持ちがある。現在でもこの考えは生きている。

◆振興局とサービスセンターの表現はその時は不明。

提言書にはいろいろな意見を取りまとめているのは確かである。

どうしたらよいかというのが現在の正直なところ。

◆推進会議の内容は、最初は飯のこれからの事の夢を語り合うという雰囲気。平成27年度になって雰囲気は変わった。振興局を1ヶ所、サービスセンターを1ヶ所が決まっているのであれば、ただき台が無ければ話は進まないの、その段階で出てきたのは、市の方からという流れが既に作られていたことは理解する。他方医療に関し地元では、季節によっては移動できないので、それぞれ設置が必要との意見を推進委員会へ言った。それなのに推進委員会では、コンサルが作ったと思われる提言をそのまま市長に提出する話となり、その中で上飯支所と出てきた。そんな話は聞いていないので訂正を申し出た。お互いの綱の引っ張り合い、地域のエゴはお互い避けたいと思っているが、推進会議ではなくその上で決まったことが、十分な話し合いもなく、そのまま動いているところがあると感じている。

市の財政問題が根底にあっての話。すべてがこれで構築されていたように思える。いろいろと議論したが、話がまとまらなかったの、別の場所で決定されたたき台が降りてきた形である。コンサルが入って決めたことがそのまま市長への提言という形となっている。コンサルが決めたことの詳細説明はされてない。里としてこの話を聞き運営委員会を開いた。ここで問題点とされたことは、企画政策部へ連絡してある。話の経緯を整理すると、

・推進会議を立ち上げた時の期限は平成28年度には決めましょう。

・実際は平成27年度にはたたき台として提示された。しかし平成27年11月にはこれを市長へ提言する旨の連絡があった。

・推進会議では、そのたたき台に対する議論の機会があったが、地元を持って帰っての検討はなかった。

◆診療所はあきらめて、さらに支所が中飯に行ったら、残るものは何もない。

◆上飯、里という捉え方ではなくなっている。里が行政の中心となるべきとの思いがある。交通の窓口としてのそれが機能ではないか。

◇架橋の完成後は、里港が玄関口となるのは事実だろう。そして里が発展していくのは当然の節理である。従って、里の皆さんは他の地域に対して、お互いに存続する可能性を考えた話をしなければならない。

◆橋が架かってから現実的な動向を見てから決定するという選択肢はないか。

◇それは重要な選択肢のひとつだと思う。現在は何を言っても机上論に変わりはなく、現実の姿を見て決めようと言うのは重要な話である。それを提案していくのは皆さんの力である。

◆有人国境離島法にひっかけて、もっといい案を提示できれば、餌として解決できるのではないかと思う。

## 2、有人国境離島地域の件

◆船賃が高い。これが最大の問題。次に、海上自衛隊の誘致。次にインバウンドの誘致、次に大型埠頭を設置し、鹿島断崖等のツアーを組めないか。停泊できる改造をできないか。これまで離島振興法があったが、今後の希望として持っている。

◇これは、今のうちに餌全体として県や市に要望として提出すべきことだと思う。島民の意見として出して欲しい。

◇消費税5%に島だけを下げるとは、非常に難しいと思われるため、島内の物価水準を本土に合わせる動きの方が実現性はあるだろう。

◆事業を拡大や別の事をやろうとしても人がいない。この法案を上手く利用して雇用につなげられることは何か。住むところが無いので、呼んでも来てくれない。市営住宅にも入れないから、呼んでも来てくれない現実がある。1ターンを雇用した際に何か使える予算はないのか。耐震・津波に強い港の建設は必要である。バス等を船に乗せる機能も港には必要である。

◇要望に加えて欲しい。必要だと思う。

◆人工透析のできる施設はできないか。現在は鹿児島市へ行っている。

◆体協等のイベントの際は、上餌でほとんどやっている。橋が架かれればこれらは解決するだろう。本土に行く場合は、切り詰められた中で選手の派遣等をしなければならぬ。運賃が安くなれば、相当な効果がいろんなところに出てくると思う。

支所は、従来通り、4ヶ所にあるべきだと思う。今日の意見は反映される様にやって欲しい。

### 【検討し、当局へサポートすべきこと】

① 餌はひとつ推進会議の全容と進め方について、地元の理解と承認を得るための話込の機会と、今後の進め方に対する意見を取りまとめて、市長や企画政策部へ提言することは必要ではないか。

② 有人国境離島法における、里からの要望事項に対してのサポート。